

所長

ひとつこと

(70)

斎藤



夏のあの猛暑が、まるで嘘のように思えるほど、静かな秋である。爽かな風の流れや、野辺に咲く秋の草花の可憐な風情が、萎えていた私達の体や心に、また再び生への息吹を呼び起してくれた。大自然の慈しみ、偉大さに感謝と畏敬の念を持たずにはいられない。同時にまた、自然に囲まれた農村に住む幸を、しみじみと嗜みしめている。

▼それに引換え、人間社会の営みは、何と小さく、愚かしいことか。いま、国内外に重要な

この時に聞く築前琵琶奏

な課題が山積しているとき、これをおもに繰り広げられている中央政界のまるで茶番劇のような混乱は、まさに残念であり、国家の發展にとっては、不毛の所作といわざるを得まい。

尤も、古今の歴史を紐解けば、人類の歴史は、まさに一握の者達による権力闘争の繰りかえであること

を知る。古代、中世は武の

力によつてそれを制し、近代民主主義の時代になると、それは数の力に変つた。しかし、武、數いずれにしろ、配の中には、すでに冬の到来の間近さを予感させられる鈍い影が宿つている。自然が織りなす四季の移ろいの確さに、新たなる感動を覚える。

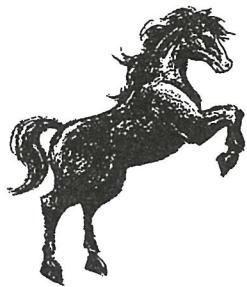
「この平家物語の冒頭の一連一句は、生きとし生けるもの、栄えているものは全て移ろいゆき、衰えゆく

者、上原まり氏の語る「平家物語」は、一層心にしみる。

斎藤

讓

塞翁が馬



平家公達の滅びを

帰ってきた。近所の人々が

馬が胡の駿馬を引きつれて

「これが福にならないとは限りませんよ」といった。

その人の家には良馬が増えた。その子息は乗馬が好き

で、馬を乗りまわしているうちに落ちて股の骨を折つた。近所の人々がなぐさめに行く

ところで、私はふだん心に秘めている素直な言葉がある。なかなか実践は難しいのであるが、

好きな言葉である。

▼悼む詠嘆の詩句といつてよい」という意味の解説を、早稲田大学の國東教授は語っている。日本の近代政治史も、暴力こそは論外であつて、馬を乗りまわしているうちに落ちて股の骨を折つた。近所の人々がなぐさめに行くと、その人は

「これが福にはならないとは限りませんよ」といつた。ところで、私はふだん心に秘めている素直な言葉がある。なかなか実践は難しいのであるが、好きな言葉である。

▼話は変わるが、私達凡人は、あまりにも目先のことに一喜一憂しすぎるようだ。実は、中国文学者の駒田信二氏が、中国名言集中で、「人間万事塞翁が馬」といふ言葉の由來を平易に説明

されたいるのを読んで、いささか目が覚めた。国境の要塞の近くに住んでいる者で、占いの上手な人がいた。その人の馬がどうしたとか逃げ出して胡の地へ行つてしまつた。近所の人々がなぐさめに行くと、その人は「これが福にならないとは限りませんよ」といった。たいこと、また吉凶禍福の転変は予測できないことであるから、禍も悲しくてあたらず、福も喜ぶにはあたらぬといふことを意味する言葉である。

▼ところどころで、私はふだん心に秘めている素直な言葉がある。なかなか実践は難しいのであるが、好きな言葉である。

「これが福にはならないとは限りませんよ」といつた。一年たつたとき、胡の者が大挙して攻め込んできた。若者達は弓を引いて戦つた。そして要塞の近くに住む人の心も身も整えられる。悲しみと苦しみにおののくときは、鏡をみよう。

「この平家物語の冒頭の一連一句は、生きとし生けるもの、栄えているものは全て移ろいゆき、衰えゆく

う言葉の由來を平易に説明

だけは脚が悪かつたために戦いに駆り出されるこなく、親子共無事であった。このように福が禍になり、禍が福になること、なかなか極めがたく、測りがたいものである。「塞翁が馬」といふ言葉は、この寓話から出た。吉凶禍福の定めがないこと、また吉凶禍福の転変がたいこと、また吉凶禍福の転変は予測できないことであるから、禍も悲しくてあたらず、福も喜ぶにはあたらぬといふことを意味する言葉である。

▼ところどころで、私はふだん心に秘めている素直な言葉がある。なかなか実践は難しいのであるが、好きな言葉である。

「これが福にはならないとは限りませんよ」といつた。一年たつたとき、胡の者が大挙して攻め込んできた。若者達は弓を引いて戦つた。そして要塞の近くに住む人の心も身も整えられる。悲しみと苦しみにおののくときは、鏡をみよう。

「この平家物語の冒頭の一連一句は、生きとし生けるもの、栄えているものは全て移ろいゆき、衰えゆく

う言葉の由來を平易に説明